

腎臓内科入局後の研修内容紹介



増田 貴博

腎臓内科医とは - 究極のGeneralist -

- 1) 慢性腎臓病（CKD）は年々増加傾向
→ 社会的ニーズが非常に高い
- 2) 検尿異常 ⇒ 腎炎・ネフローゼ ⇒ 腎不全 ⇒ 透析医療
→ 一貫した管理が可能
- 3) 腎臓の役割
 - ・老廃物の排泄
 - ・血圧調節・体液バランス（電解質・酸塩基平衡）
 - ・内分泌機能（造血/カルシウム代謝）→ 担当領域は実に幅広い
- 4) 腎臓病は全身性疾患（生活習慣病・膠原病）と密接に関連
→ 全身に生じる病態を総合的に管理する能力が要求される
- 5) 他科からのコンサルトが多い
（急性腎障害、電解質異常など）
→ 他領域の診療科と連携、コーディネーター的役割

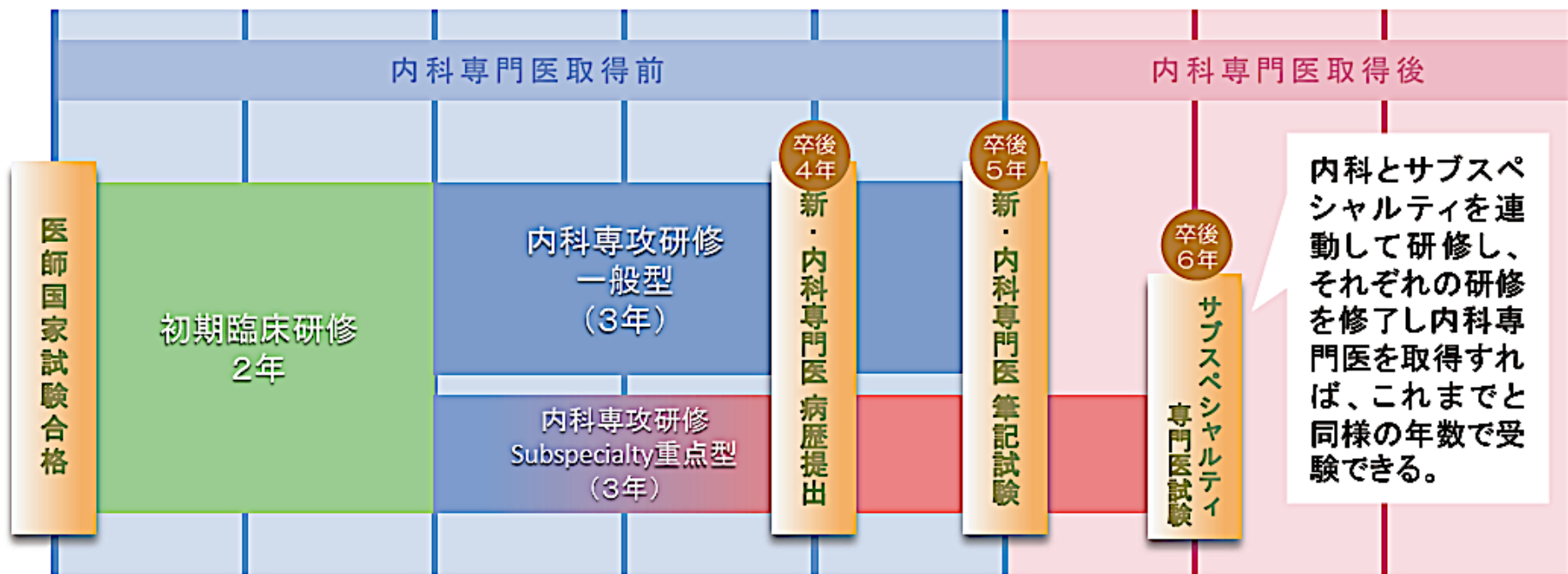
日本腎臓学会・日本透析医学会の会員数

日本消化器病学会	35,012名
日本循環器学会	26,375名
日本透析医学会	17,931名
日本呼吸器学会	12,519名
日本腎臓学会	10,785名
日本リウマチ学会	約10,000名
日本神経学会	9,008名
日本内分泌学会	8366名
日本高血圧学会	5,340名

新しい内科専門医制度

基本領域とサブスペシャリティ領域との連動研修

卒後5年で内科専門医、6年で腎臓専門医を取得可能



内科専門医と腎臓内科専門医取得への連動研修

内科領域のサブスペシャリティ領域

機構認定	(2)連動研修を行い得る領域				(4)少なくとも1つのサブスペシャリティ領域を修得した後に研修を行う領域			
	内科基本領域研修(3年)							
消化器病	消化器内科(領域)							
肝臓					肝臓内科(領域)			
消化器内視鏡					消化器内視鏡(領域)			
循環器	循環器内科(領域)							
呼吸器	呼吸器内科(領域)							
血液	血液内科(領域)							
内分泌代謝	内分泌代謝・糖尿病内科(領域)				内分泌代謝内科(領域)			
糖尿病					糖尿病内科(領域)			
神経内科	脳神経内科(領域)							
腎臓	腎臓内科(領域)							
リウマチ	膠原病・リウマチ内科(領域)							
					(3)連動研修を行わない領域			
アレルギー	内科および他の基本領域(3年)				アレルギー(領域)			
感染症					感染症(領域)			
老年病					老年科(領域)			
がん薬物療法					腫瘍内科(領域)			
<医師年数>	3	4	5	6	7	8	9	

※領域の名称については、改めて検討がされるべきである

8

「透析専門医」の取得条件

卒後7年で取得可能

- 内科専門医等の専門医を取得済
- 臨床経験5年以上
- 初期研修医1年目は臨床経験に含めない.
- 透析医学会認定施設において1年以上または教育関連施設において3年以上を含む通算3年以上の透析に関する研修を修了
- 申請時において、学会の会員歴3年以上

腎臓内科の研修病院

自治医科大学腎臓内科および学会認定研修施設



新たに「とちぎメディカル」が教育施設に認定！

【新規・教育施設】

期日までに所定の手続きを踏んで申請書を提出され、審査を受けた施設

※正式承認は5/24の理事会です

認定日：2020年4月1日～2025年3月31日

新しい認定証は当初 6月の学術総会后、7月末に発送予定でしたが
総会が延期のため発送時期未定です。決まり次第ご案内いたします。

東北医科薬科大学若林病院
<u>とちぎメディカルセンターしもつが</u>
SUBARU健康保険組合太田記念病院
日本赤十字社 深谷赤十字病院
春日部中央総合病院
国際医療福祉大学成田病院

学会認定研修施設

●日本内科学会認定教育関連施設・専門研修関連施設

- 1) 新小山市民病院
- 2) JCHOうつのみや病院
- 3) 芳賀赤十字病院
- 4) とちぎメディカルセンターしもつが
- 5) 古河赤十字病院

●日本腎臓学会・日本透析医学会研修施設

- 1) 新小山市民病院
- 2) JCHOうつのみや病院
- 3) 芳賀赤十字病院
- 4) とちぎメディカルセンターしもつが（透析は申請予定）
- 5) 古河赤十字病院
- 6) グリーントウunkクリニック(透析医学会研修施設)

腎臓内科には学会認定の研修病院が多数あり、
専門医取得のための環境が充実しています！

<最短コース>

卒後5年目	内科専門医取得
卒後6年目	腎臓専門医取得
卒後7年目	透析専門医取得

当科現メンバーの専門医・指導医取得者数

● 内科認定医	31名
● 総合内科専門医	16名
● 内科指導医	10名
● 腎臓専門医	21名
● 腎臓指導医	7名
● 透析専門医	19名
● 透析指導医	7名

女性医師支援プログラム

家庭（子供）を持ちながら医師（専門医）としてキャリアアップできるシステム

- ✓ 近年、家庭（子供）をもつ女性医師が増えています。しかし、常勤医として仕事と家庭（子育て）の両立は困難なことが多く、妊娠・出産を機に臨床から離れる先生も少なくありません。
- ✓ 当科では「**専門医を取得したい**」「**専門領域の素養・能力をさらに高めたい**」と思っている女性医師を積極的にサポートしています。

自治医大「医師・研究者支援キャリアセンター」の育児短時間勤務制度
を利用した勤務内容

（例）週20時間または30時間の時短勤務

（週4-5日、外来または透析業務、当直なし）

常勤（大学・関連病院）



結婚・出産・その他



女性医師支援プログラム

大学や関連病院（学会認定施設）に時短として勤務

専門領域のキャリアアップ

⇒ 臨床や研究に携わり、専門医取得や大学院に進学

病棟勤務

【週間予定】

月：病棟診療（患者診察・検査・手技）

火：8:30-11:30教授回診，
12:30-13:00ランチョンセミナー，
16:00-17:00腎生検カンファ

水：15:00-17:00
17:30-18:00 PDカンファ

木：16:00-17:00 PM：病棟医長チェック→問題症例検討
（問題症例のみ）

金：17:30-18:00 週末にむけてチーム間申し送り

＊チームチェックの時間は、原則的に朝8:30-、夕17:00 -
（BSL学生も参加）。

＊病棟業務は、18:00には終了するように心がけています

病棟勤務

【検査、処置】

腎生検（火曜午後がメイン, シニアには積極的にトレーニングしてもらう）

カテーテル留置術：三木(敦)先生、大原先生）

PTA：三木(敦)先生、大原先生）

アクセス造設術（腎臓外科の指導下で腎内でもオペを執刀できるようになりました）

＜週末出勤＞

月2日程度の出勤が基本で、宅直との兼務が可能

学会活動

学会発表

国内学会

日本内科学会（学術総会/地方会）
日本腎臓学会（学術総会/東部会）
日本透析医学会
日本高血圧学会
日本アフエレーシス学会
日本移植学会
日本再生医療学会

国際学会

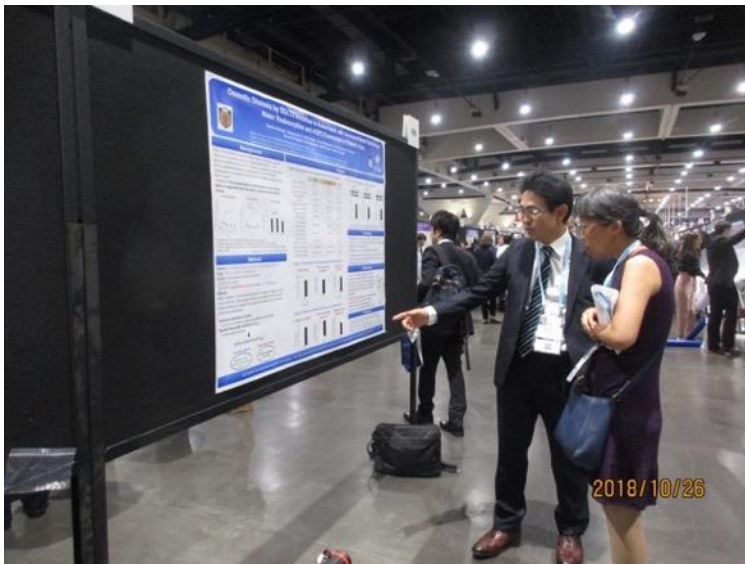
アメリカ腎臓学会（ASN）
国際腎臓学会（ISN）
欧州腎臓学会・欧州透析移植学会（ERA-EDTA）
アメリカ心臓学会（AHA）

アメリカ腎臓学会

Main Hall



ポスター会場



受賞リスト

第62回日本腎臓学会学術総会

「優秀演題賞」菱田英里華先生 腹膜線維症におけるNLRP3インフラマソームの役割

自治医科大学大学院医学研究科 第4回大学院生ワークショップ

「Best Presentation Award（医学研究科長賞 最優秀賞）」菱田英里華先生

NLRP3 Inflammasome Contributes to Peritoneal Inflammation and Fibrosis in a Mouse Model of Peritoneal Fibrosis

日本内科学会ことはじめ 2018

「優秀演題賞」近本香織さん（指導教官賞：岡健太郎先生）

IgA 腎症を合併した Kartagener 症候群の1例

第47回日本腎臓学会東部学術大会

「優秀演題賞」永山泉先生

トルバプタンとフロセミドの体液分布への効果の違いを確認した肝硬変合併腎不全の1例

日本内科学会ことはじめ 2017

「優秀演題賞」小野友輔先生（指導教官賞：吉澤寛道先生）

腎摘後の創傷治癒が経腸栄養により著明に改善した腎膿瘍合併血液透析患者の1例

日本内科学会ことはじめ 2016

「優秀演題賞, プレナリーセッション」岡健太郎先生（指導教官賞：菱田英里華先生）

単クローン性免疫グロブリン血症（MGUS）を合併し、診断に苦慮した顕微鏡的多発血管炎（MPA）による尿細管間質性腎炎（TIN）の1例

「優秀演題賞」金子美和先生（指導教官賞：三浦麻里菜先生）

急性腎障害を契機に診断され、多彩な肺病変を呈した多発性骨髓腫とアミロイドーシスの1例

当科ホームページも是非ご覧ください！

自治医科大学腎臓内科



当科の後期研修プログラムに興味のある方は、下記までご連絡下さい。

連絡先：自治医科大学腎臓内科医局（増田）
TEL: 0285-58-7346
E-mail: jinzonai@jichi.ac.jp